

小学校英語科における指導と評価の一体化（3年次） －パフォーマンスと振り返りの相互作用－

西原 美幸

1 はじめに

小学校外国語活動のゴールは、学習指導要領の目標や年間指導計画にもあるように、身近な相手と身近で簡単な事柄について、自分の思いや考えを「聞く」ことにより「やり取り」する、あるいは「発表」することができることである。「Let's Try! 1」（文部科学省，小学校3年生用教材）「Let's Try! 2」（文部科学省，小学校4年生用教材）においては、どの単元においても友達や教師とやり取りをするゴールや、自分のオリジナル作品等を友達に伝えるというゴールが示されている。けれども、こうしたアウトプットに至るまでには、聞く活動で行われる「インプット」からいくつもの段階を踏まえる必要がある。自分の自己表現を行う発話までには時間がかかるものであることを念頭に置き、目的をもった繰り返し練習やアクティビティをとして口慣らしの活動を行い、少しずつ自分の思いを入れた表現に挑戦する丁寧なステップが必要である。

英語科における〈他者〉は、以下の三側面から設定している。

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">① 日・英語の言語比較・日英語圏の文化・考え方の比較② 英語でのやり取りの相手としてのクラスメイトや教師③ 英語を使用して相手と人間関係を調整しようとしたり相手の考えを元に新たな考えを生み出そうとしたりする自分の中にある内なる〈他者〉 |
|---|

本年度は、「小学校英語科における指導と評価の一体化－パフォーマンスと振り返りの相互作用－（3年次）」である。本年度の新たな取組として、複数単元で英語科における〈他者〉を楽しみ続ける児童が育成されたかどうかを見取っていくこととする。昨年度までの研究推進の中で「指導と評価の一体化」において、一つの単元内では児童が本当に育っているのか、その変容が見取りにくいという課題があった。そこで、複数単元内において、児童の変容を長期的に見取り、パフォーマンスと振り返りの相互作用により、「〈他者〉を楽しみ続ける児童」が育成されたかどうかを見取っていくこととする。

その具体として「複数の Unit をつないだ単元構想」を試みる。今年度は「2つの Unit をつないだ単元構想」により、今年度は特に「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の2領域における技能面と情意面の高まりを評価することによって、その効果を検証することとする。

まず、「複数の Unit をつないだ単元構想」における指導について次のように考え

る。複数単元をつなげることで、児童は繰り返し友達とやり取りしながら表現の幅を広げるのに必要な知識及び技能を十分に定着させることができるようになる。スパイラルに一度出会った事項が何度も登場するように授業者は工夫をしたい。語彙や表現については一度取り上げれば、児童の中に積み上がっていくという性質のものではなく、異なる場面や機能の中で繰り返し接することが重要であると考え。また、場面や状況に応じて、どの表現を使うことが求められるのか、思考・判断したことをもとに、表現することを経験できる。小学校中学年では、かなり難しい挑戦かもしれないが、**Try and Error** の精神で、「ことばを使いながら学び、学びながら使う」ことが授業内で可能となる。

また、「複数の **Unit** をつないだ単元構想」における評価について次のように考える。「指導と評価の一体化-パフォーマンスと振り返りの相互作用-」において、何を「振り返り」するのかが異なってくる。「単元＝山登り」と考えると、単元後半になってくると、その山の頂上（＝ゴール）のどこまで到達できているのか、全体の中で振り返ることが大切である。

さらに「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、学習を始めてから児童に一定の変容が見られるようになるためには時間が必要となる。複数単元をまたいで繰り返し表現に慣れ親しませることで、児童が既習表現を想起し、思考を働かせた深いやり取りの様子を評価することが可能となる。

本単元では、以下のように<他者>として設定する。

一つは、「教材としての<他者>」（① 日・英語の言語比較・日英語圏の文化・考え方の比較）であり、本実践では、学習者にとって新たに出会う言語形式をさす。既習の食べ物や動物の名前、**What do you like? I like～.What do you want? I want ～.**等の英語表現に加えて、**What's this? It's a(n)～. Are you ～? Yes, I am. No, I'm not.**等の **be** 動詞を用いた英語表現を扱うことを通して、表現できる内容の広がりを感じることができる。これまで、一般動詞のみのやり取りであったが、場面や状況に応じて、**be** 動詞を用いた文構造を用いなければならず、英語を学習し始めたばかりの3年生児童にとってはチャレンジ性の高いものとなる。しかし、「わたし」（一人称）と「あなた」（二人称）の世界に新たな英語表現が加わり、<他者>と出会うことにより、確実に自己の知識・技能の更新作業が行われることになる。

二つ目は、「教室の中の<他者>」（② 英語でのやり取りの相手としてのクラスメイトや教師）であり、最終パフォーマンス課題に向かって共に取り組む学習者や指導者のことを指す。自分とは異なる<他者>に出会い学びを共有することで、自分のパフォーマンスを客観的に振り返ったり俯瞰したりすることができる。そこで自分に足りないもの（内容・方法）を補い、自己更新する等、学びの自己調整を図ることが可能となる。

最後に、「内なる<他者>」（③ 英語を使用して相手と人間関係を調整しようとして相手のお考えを元に新たなお考えを生み出そうとしていたりする自分の中にある<他者>）である。自己のパフォーマンスを内省する習慣をつけることで、自らの学習に責任をもって常にレベルアップを図ることのできる自律的な学習者への成長を目指す。

本単元では、以上のように本単元では<他者>を設定しているが、本年度研究では対象を「教室の中の<他者>」に焦点化したい。

筆者が課題意識としてもっている「子どもの変容」には何が必要かを考えると、子どもが<他者>に価値を見出すことができるかどうかである。そしてそのための教師の働きかけについて考えたい。

<他者>に価値を見出すことは「自己の変容」につながる。ただ変容は自覚してこそ意味がある。子どもは自己の学びの変容を自覚することにより、学ぶ意味を感じたり、自分に自信をもったりすることができる。いくら<他者>（この場合は教師や友達）から「変わったね」と言われたとしても本人にその自覚がなければその言葉は意味をもたないだろう。自己の学びの変容を自覚することは、自分の中にある価値の成長を自覚することだろう。自己の学びの変容を実感することは、自分の中にある「価値」の成長を自覚することである。そして、それは主題である「<他者>を楽しみ続ける」ことであると考え。友達の解決方法や考え方、発想、表現方法等から見出した「価値」によって、子どもに自身の「価値」が成長したことを自覚できるようにしていきたい。子どもが自己の学びの変容を実感する際には、友達に存在が不可欠であること、友達の表現から「価値」を見出すという行為自体に「価値」があることから友達の存在を意識させるような「振り返り」をしていく必要もあると考える。

2 単元デザインと本時の学習指導

- (1) 実施学年 第3学年（令和4年11月実施）
- (2) 単元名 Who are you? (Let's Try! 1, Unit 9)
- (3) 子どもの実態

外国語学習初期段階の子どもにとっての外国語における「話すこと」【発表】パフォーマンスは、「今の自分にできるかどうかわからない」「伝えたいことはあるけど、何から取り掛かればよいかわからない」という外国語を用いた発表そのものへの不安感が大きい。その実態に対応し、英語を使うことへの不安感を払拭するために、英語によるコミュニケーション時における「相手が聞いてくれた」「相手に伝わった」という実感、達成感、充実感を味わう経験を大切にしたい。

第3学年児童は積極的に発言できる児童がいる反面、意味がわからなかったり、身に付くのに時間がかかったりして、消極的になってしまう児童もいる。児童の個人差が大きいことから、既習表現やジェスチャー等を用いて、英語表現でコミュニケーション

オンを図ることの楽しさを積み重ねていくことにより、自信をもって話せるようにしていくことが必要であると考え。既習表現を豊富に使いながら、新出表現にも十分慣れ親しませ、英語を話すことに安心感をもたせたい。そして英語でコミュニケーションを図ることの楽しさを実感させ、自分の思いや考えを伝え合う力を段階的に育成したい。

(4) 本単元で育成する資質・能力

聞くこと イ	ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味がわかるようにする
話すこと（発表） ア	身の回りのものについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする

(5) 単元目標

- ・クラスのみんなが楽しめるような身の回りのものを題材としたクイズを自ら考え、英語でたずねたり答えたりすることができる。
- ・相手に伝わるように工夫を凝らし、クイズを出したり答えたりしようとすることができる。

(6) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<p><知識> 日本語と英語の音声の違いに気づき、身の回りのものの言い方やあるものや人が何か（だれか）を尋ねたり答えたりする What's this?や Are you~?, That's right.等の表現を聞くことに慣れ親しんでいる。</p> <p><技能> 身の回りのものの言い方やあるものや人が何か（だれか）を尋ねたり答えたりする What's this?や Are you~?, That's right.等の表現を聞き取る技能を身に付けている</p>	クイズ大会を行うために、既習の表現や色・動物・スポーツ・食べ物等についての話を聞いて内容を理解している	/
話すこと（発表）	<p><知識> 身の回りのものの言い方やあるものや人が何か（だれか）を尋ねたり答えたりする What's this?や Are you~?, That's right.等の基本的な表現について理解している</p> <p><技能> 身の回りのものの言い方やあるものや人が何か（だれか）を尋ねたり答えたりする What's this?や Are you~?, That's right.等の表現を用いて話すことに慣れ親しんでいる</p>	自分の身の回りのものの言い方やあるものや人が何か（だれか）を尋ねたり答えたりすることについて相手に伝わるように工夫し、既習の表現や色・動物・スポーツ・食べ物等について話している	

(7) 単元構想

時	○学習目標 ◆学習活動	評価規準		
		知技	思判表	態度
1	○絵本などの短い話を聞いて、おおよその内容をつかむとともに、日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気づく ◆絵本の読み聞かせを聞く（1回目） ◆Who am I?クイズを行う（ヒントを聞いて何の動物かを考えて答える）			
2	○絵本などの短い話を聞いておおよその内容をつかむとともに、日本語と英語の音声やリズム等の違いに気づく ◆絵本の読み聞かせを聞く（2回目：言えるところは一緒に発話する） ◆絵本の場面についての話を聞き、どのページかを探す ◆Who am I?クイズを行う（ヒントを聞いて体のどの部分かを考えて答える）			
3	○日本語と英語の音声やリズム等の違いに気づくとともに、誰かと尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ ◆絵本の読み聞かせを聞く（3回目：教師と子どものやり取りで進めていく） ◆場面カード並べをする ・読み聞かせを聞きながら筋にあうように場面カードを並べる ・場面カードを見ながら指導者と一緒に場面のセリフを再現する	聞		
4 (本時)	○誰かと尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ ◆絵本の読み聞かせを聞く（4回目：教師と子どものやり取りで進めていく） ◆Who am I?クイズをつくってみる ◆友達と Who am I?クイズを出し合って改善する		発	
5	○絵本等の短い話を反応しながら聞くとともに、相手に伝わるようにクイズを発表する ◆オリジナルのやり取りを取り入れながら、絵本の台詞を教師と一緒に言う ◆Who am I?クイズのグループ発表会を行う			発

(8) 本時の目標

Today's Goal

- ・ヒントを楽しく聞き続けられるようなクイズとヒントの出し方を工夫しよう

Today's Skill

- ・「I'm ~.」 と 「I like~.」 を使い分けたり、「Are you ~?」と「Do you ~?」を使い分けたりして「My Original Quiz」で友達を楽しませるようなクイズをつくろう

(9) 本時の学習過程

	本時の流れと指導の手立て	授業の視点
導入	<p>1. Greeting</p> <p>2. Story Time 「Who are you?」 絵本の文脈の中で目標となる表現が使われている感覚を体感させる。教師による絵本の読み聞かせを行うが、児童とやり取りをしながら次の展開を予測させ、物語をつなぎ、英語表現に慣れ親しませる</p> <p>3. Small talk 「What animal do you like?, What animal do you want (have) as your pet at home?」</p> <p>4. 「Guessing Game」 ・ 2. とは異なる文脈の中で目標となる表現を使用したやり取りを行う。その際に、相手への配慮を意識して伝えるよう工夫させる ○言語手段：使用語彙・スピード・間 ○非言語手段：視覚手段・gesture ・ 情報や気持ちを伝え合う時に、付け加えてみたい表現について全体共有し、対話をふくらませる</p> <p>5. Presentation of Today's Target</p>	<p>◆パフォーマンスと振り返りの相互作用</p> <p>① 話す相手を意識しながら、やり取りや発表を進めていたか。</p> <p>② クイズに解答するために英語で情報を収集することができたか</p> <p>③ 互いにクイズの解答に迫るための質問を出し合い、伝える手段や方法について友達の工夫を積極的に自己に取り入れようとしていたか</p> <p>手立て</p> <p>① 指導者が対話をリードする様子を見せ、次にどんな質問をしたらよいか問いかけ、考えを共有する。</p> <p>② 活動前や中間評価の際に、自分で考えた内容が相手に伝わる表現であったか、他に付け足したいことはないか問いかけたりして、よりよい紹介をしようという意欲を高める。</p> <p>③ 相手に伝えようとしたり、分かっているかどうか様子を確認したりしているペアを全体で取り上げ良い姿を共有することで、後半の活動でよりよい紹介ができるようにする。</p>
展開	<p>6. Communication ① ・ 選択して自己決定した英語表現と話題に基づいて相手に質問することにより、その場で考えながらやり取りしたり発表したりすることにチャレンジさせる ・ クイズの答えに迫るためには、どのような質問をすればよいか思考させる。 ・ 自分が尋ねたり友達が尋ねたりするのを聞いて収集した情報や工夫を取り入れて、自己修正を図る</p> <p>7. Reflection ① ・ 途中で中間評価を行ってから後半の活動を始める。 (be 動詞疑問文と一般動詞疑問文の違い) ・ 困ったことがないか確認したり、全体に多く見られた間違いや態度面の課題について指導したりする ・ よい方法やより伝わるための工夫を共有する。</p> <p>8. Communication ②</p>	

(文責：西原 美幸)